

2022年2月17日  
イオン株式会社

— グループを挙げて 使い捨てプラスチック削減に向けた取り組みを加速 —  
カトラリーを紙・木に切り替え、店頭回収ペットボトルがトップバリュ商品に！

イオンは、2020年に策定した「イオン プラスチック利用方針」に基づき、持続可能なプラスチック利用に取り組んでいます。事業活動で使用する使い捨てプラスチックを2030年までに半減する目標を掲げ、イオンのブランド「トップバリュ」で使用するペットボトルは、2030年までに100%再生または植物由来素材への転換を目指しています。

より確実に使い捨てプラスチックの使用量を削減するため、2022年度は、特に下記の取り組みに注力します。この2つの取り組みで年間 約500tの使い捨てプラスチックが削減でき、約1,486tのCO<sub>2</sub>削減に貢献します。

記

1. 無料配布カトラリー類を紙・木製に切り替え

2022年3月から順次、イオンの主要なグループ店舗で無料配布しているストロー・カトラリー類を、プラスチック素材から紙や木などの環境配慮型素材へ切り替え、年間で約150tのプラスチックを削減します。



<切り替え計画の例>

社名	対象店舗数	主な「無料配布カトラリー類」の例*		
		紙製ストロー	木・紙製スプーン	木・紙製フォーク
イオンリテール(株)	全店(約360店舗)	切り替え済み	2022年3月から順次	
イオン北海道(株)	全店(165店舗)	2022年4月1日から順次(一部の店舗で先行して切り替え)		
イオン九州(株)	全店(247店舗)	2022年4月1日から順次(一部の店舗で先行して切り替え)		
イオン琉球(株)	全店(57店舗)	2022年4月1日から順次		

※「無料配布カトラリー類」の取り扱い種類は店舗により異なります。

2. イオンの店舗で回収したペットボトルを使用した「トップバリュ」商品を発売

イオン店舗の資源回収ボックスにお客さまがお持ちになった使用済みペットボトルを、容器の原材料に再生した「トップバリュ」の飲料を発売します。本商品は、2021年2月に丸紅グループと連携して開始した「ボトル to ボトル プロジェクト」を通じて調達したペットボトルを使用しており、今回の商品化により年間で約350tの化石由来のバージンプラスチックを削減します。

以上

【本件に関するお問い合わせ先】

イオン(株) コーポレート・コミュニケーション部 神田 電話：043-212-6061

## ご参考

### ■ 「イオン プラスチック利用方針」 (2020年9月策定)

イオンは、脱炭素社会の実現に向けて、持続可能なプラスチック利用に取り組みます。店舗・商品・サービスを通じて、全てのステークホルダーの皆さまとともに、脱炭素型かつ資源循環型の新たなライフスタイルの定着を進めて参ります。

1. 事業活動における資源の無駄使いや使い捨て型の利用を見直し、使い捨てプラスチックゼロを目指します。
2. 必要なプラスチックは化石由来から環境・社会へ配慮した素材へ転換します。
3. 店舗を拠点に使用済プラスチックの回収・再利用・再生する資源循環モデルを構築し、お客さまとともに持続可能な資源利用に取り組みます。

〈目標〉 CO<sub>2</sub>排出量ゼロの持続可能なプラスチック利用を目指し、

- ・ 2030年までに、使い捨てプラスチック使用量を2018年比で半減します。
- ・ 2030年までに、全てのPB商品で環境・社会に配慮した素材を使用します。
- ・ 2030年までに、PB商品のPETボトルを100%再生又は植物由来素材へ転換します。

### ■ イオンの店舗でのペットボトル回収実績



※1 連結子会社中21社分の合計 (2022年2月現在でボトルtoボトル以外でリサイクル活用されている分も含む)

※2 525mlペットボトル重量 = 26.3gを1本として換算

※3 回収量1kgあたりのCO<sub>2</sub>削減量を3.6kg-CO<sub>2</sub> (マテリアルリサイクル) で換算

### ■ 「トップバリュ」環境配慮型商品の一例

#### 容器に再生プラを使用



飲料用ペットボトルをリサイクルしたメカニカルペット素材を容器本体に95%使用した商品

#### バイオマス素材の使用



包装フィルムの一部にバイオマスを使用した商品

#### ラベルレス飲料の展開



ラベルを省くことで使用するプラスチックの量を削減しています